

# 千葉銀行史





## 発刊にあたって

このたび、当行創立30周年記念事業の一環として、千葉銀行史を発刊することになりました。

今回の行史の発刊にあたっては、単に千葉銀行30年の歴史をたどるというだけでなく、古く明治にさかのぼって、日本の金融史、とくに千葉県における金融史的な面をも網羅したものとなっております。

私は、千葉県が京葉工業地帯を中心として、めざましい発展をとげた昭和30年代の歴史は、そのまま千葉銀行の歴史と言えるのではないかと思うのですが、京葉工業地帯の発展のさなかにあって、不幸にして当行は二つの貴重な経験をせざるを得ませんでした。

一つは、昭和33年5月の経営交替であり、もう一つは昭和35年の労働争議であります。

この二つが当行にとって、その後の発展のための節であったと言えます。

それ以来、労使一体となって企業再建に努力した結果地場の経済の発展にも支えられ、昭和48年3月にめでたく創立30年を迎えることができましたことは、誠に喜びにたえません。

この行史が、当初発刊を予定されていた時からおよそ1年半遅れた訳ですが、この間に世界経済も、そして日本経済も歴史的な転換期に遭遇いたしました。



当行をとりまくこの一年半の経済金融情勢の変化とその間における当行の経営施策については、今後充分時間をかけて研究されなければなりません。

行史は、時の流れの中における経営の決断の歴史であり、その時点時点における施策が結果的にみて正しかったかどうかを評価し、今後の経営に生かすことが大切と言えます。

創立30年の歴史に、さらに最近のきびしい経済情勢の中における当行の歩んできた道を正しくふまえ、これからの銀行の経営に生かすことによって、今後40年50年、そして100年を迎えるであろう当行の力強い発展を祈念して発刊のご挨拶にかえたいと思います。

最後に、本史の刊行にあたった関係各位のご協力ご努力にたいし心からお礼を申し上げます。

昭和50年3月

頭取 岩城 孝博



本店全景





現 役 員



取 締 役 中 山 眞 吾	取 締 役 北 村 榮 一	取 締 役 古 澤 正	取 締 役 小 口 喜 三 男	取 締 役 關 益 治	後 列 右 か ら	常 務 取 締 役 鈴 木 繁 造	常 務 取 締 役 内 藤 滿 洲 也	専 務 取 締 役 古 山 博	頭 取 岩 城 長 保	前 列 右 か ら	副 頭 取 鈴 木 久	専 務 取 締 役 鈴 木 正 巳	常 務 取 締 役 瀧 田 格 司	常 務 取 締 役 小 川 正 弘	前 列 右 か ら	取 締 役 伊 藤 英 雄	取 締 役 竹 中 正 和	常 任 監 査 役 白 鳥 貞 三	監 査 役 古 山 米 理	監 査 役 磯 田 信 夫	後 列 右 か ら
---------------------------------	---------------------------------	----------------------------	--------------------------------------	----------------------------	-----------------------	---	--	--------------------------------------	----------------------------	-----------------------	----------------------------	---	---	---	-----------------------	---------------------------------	---------------------------------	---	---------------------------------	---------------------------------	-----------------------



# 規律 勤仕 規協 奏奉

頭取 岩城長侃



## 千葉銀行 行歌



作詞・千葉銀行  
補作・薩摩 忠  
作曲・土肥 泰

- 一. みはるかす 海の碧さよ  
 発け行く 京葉の 京葉の  
 すこやかな姿よ  
 おお ここに 夢かおる  
 夢かおる花 ひまわり  
 ちばぎん ちばぎん われら
- 二. あおぎみる 空の広さよ  
 進み行く 京葉の 京葉の  
 たくましい生命よ  
 おお ここに 明日を呼ぶ  
 明日を呼ぶ花 ひまわり  
 ちばぎん ちばぎん われら
- 三. かわしあう 声の若さよ  
 築き行く 京葉の 京葉の  
 かぎりない未来よ  
 おお ここに 燃えあがる  
 燃えあがる花 ひまわり  
 ちばぎん ちばぎん われら